



井上 茂センター長

町の先生（人材バンク）事業の事務局は田鶴浜地区コミュニティセンターに置かれている。井上茂センター長は「地域づくり協議会生涯学習部会のメンバーが、何か地域が元気になる取り組みができなかつたかと相談し、地域住民の『昔取った杵柄（きねづか）※』を子や孫の世代に教えていこう、広く住民に呼び掛けよう」と町の先生事業に取り組み始めた」ときっかけを話した。町の先生の活動は、人材バンクに登録するだけで特にルールはなく、保育園や小学校、生涯学習団体などの依頼に応じて自分の持つ知識や技能などを自分なりに伝えることだという。

※若い時に身に付けた技能や腕前

「町の先生」プロジェクト
始動



自身の魅力ややりがいや語る井上さん。今後、地域づくり協議会の取り組みとして「高齢者サロン」や「認知症カフェ」など地域住民の寄り合いの場に町の先生を招き、手芸品を作ったり、体操をしたりして認知症予防につなげていきたいと考えている。また新たな人材をさらに発掘し、引き続き町の先生事業を継続させていくことも目指している。



祭りは園児の元気な太鼓で幕を開ける

自身も十数年にわたり、保育園や小学校で、住吉神社の春祭り「住吉大祭」の歴史や木遣り音頭を教え続けている。「教えた子どもたちと、祭りの時に一緒に太鼓を叩いたり木遣りをうたったりできることが、指導者として何よりの喜びです」と、町の先



生の魅力ややりがいや語る井上さん。今後、地域づくり協議会の取り組みとして「高齢者サロン」や「認知症カフェ」など地域住民の寄り合いの場に町の先生を招き、手芸品を作ったり、体操をしたりして認知症予防につなげていきたいと考えている。また新たな人材をさらに発掘し、引き続き町の先生事業を継続させていくことも目指している。



地域住民でにぎわう寄り合いの場

井上さんは「町の先生に来てもらって良かった」「町の先生に登録して良かった」との声も届くようになった」と笑顔を見せる。「田鶴浜以外の地域でも、町の先生として活動している人がいる。田鶴浜の良いところを知ってもらう機会になればうれしい」と手応えを胸に、さらなる活性化に知恵を絞る。

ふるさとと君たちの未来のために
～自分たちの知識や技能を伝える「町の先生」～

地域に眠っている人材を
掘り起こす

人口減少や少子高齢化が進み、統合のため中学校が市街地に移転した田鶴浜地区。住民と子どもたちの交流が減り、先代から受け継いだ祭りなどの地域行事が縮小されつつある中、田鶴浜地区地域づくり協議会は平成28年度から「地域づくりは人づくり」を活動テーマに、「町の先生（人材バンク）」事業に取り組み始めた。この事業は地域に眠っているさまざまな知識や技能を持つ住民を発掘し、町の先生として登録する仕組みを作り、学校やコミュニティセンター、各種団体などが行う生涯学習活動に講師の紹介を行うもの。住民の知識や技能を伝える場を通して、次の世代に郷土への理解や愛着を深めてもらうと考へた。



町にはわたる。現在登録者は100人を超え、保育園や小学校、コミュニティセンターなどからの派遣依頼に応え活動を重ねてきた町の先生は、着実に住民の生涯学習活動の後押ししている。今回は、田鶴浜地区地域づくり協議会が進める町の先生の取り組みを紹介する。

Interview

町の先生は浜っ子を
育てる力強い味方

田鶴浜小学校 校長
渡辺 芳昭



町の先生には、学校の教員では知り得ない、教えきれない地域の伝統行事や歴史、伝統工芸、スポーツなどを児童に教えてもらい感謝の気持ちでいっぱいです。人材も豊富で人と人とのつながりが強く、木遣り音頭保存会や地方史の会、スポーツクラブなど、学校にとって町の先生は力強い味方であり、田鶴浜地区の地域力を感じています。地域の皆さんのふるさとを思う郷土愛は、児童にしっかりと伝わっています。